

八王子消化器病院ニュース

第32号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

消化器病専門医療機関・東京女子医大関連病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL : 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株)教育広報社

# おおり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



## 平成23年度後期を迎えて

八王子消化器病院 院長 原田 信比古

10月に入り秋の深まりを感じるこの頃です。復興、節電、水害とさまざまなことがあつた夏も終わり、社会全体が少し落ち着きを取り戻したかに見えますが、今なお多くの方々が困難な状況と不安の中におられます。心からお見舞い申し上げますとともに、息の長い支援が必要であることを痛感しております。

さて平成23年度も半年が過ぎ後半に入りました。当院は来年1月で現在の地に病院を新築移転して10年を迎えます。この間、全職員で病院機能の根幹となる体制を整えてまいりました。当院で独自に開発した電子カルテをはじめ、最新の医療機器、入院・外来の環境整備、また職員の専門資格や各種学会の認定施設取得、さらに患者様への接遇などソフト面にも注力し、消化器疾患の専門病院として地域医療の一翼を担う病院へと整備してきました。

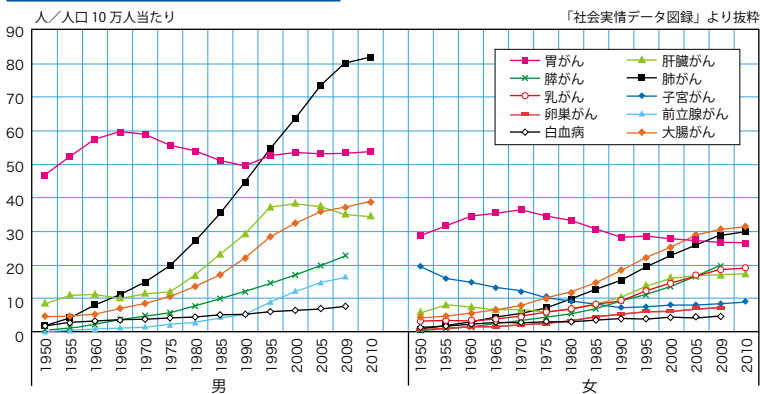
当院は開院以来、その母体である東京女子医科大学消化器病センターの開設者であった中山恒明初代理事長の提唱した「患者様のための医療」を病院の基本理念として掲げています。今日では多くの医療機関で当然の理念とされるようになりましたが、中山教授が消化器病センターを創設された昭

和40年当時の医学界では医療の原点に立ち返ることを提唱したきわめて斬新な理念でした。また、当時は患者様中心の医療ではなく、医療者側の都合によって主治医が次々と代わる診療体制でしたが、東京女子医科大学消化器病センターの医療練土制度は診断から治療、術後管理までを一貫して診ることのできる医師の育成を目指し、さらに内科・外科の医師が互いに密接に連携して診療にあたることを目標としました。当院に集う医師たちは今もその精神を引継ぎ、日々の診療にあたっています。しかし、これからの医療は単に病気を治すだけではなく、個々の患者様の背景にある家庭や生活環境まで考慮した医療でなければなりません。昨年逝去した故羽生富士夫前理事長が、理事長退任にあたり本誌上で「患者さんの病苦のみならず、ご家庭の苦痛、経済的、精神的、社会的な困苦のすべてに対応すべく、設備の充実と医療従事者の能力向上をはかり全職員が絶えず研鑽を怠つてはならない」と述べているように、単に病気だけに目を向けていては多様化する医療技術と社会情勢の中で、真に患者様の病苦を救済できないからです。最近、私はカルテに患者様の病状や検査結果だけではなく、特に

手術や入院を必要とする患者様については、背景の家族構成や職業、生活環境の概略も併せて記載しています。というのは診療にあたってはどのような生活環境から、その患者様が病院を訪れ、治療を受けられたのちにどのような場にもどられるのかが非常に重要な情報であり、これを見誤ると患者様のQOL(生活の質)や尊厳を無視した冷たい医療になってしまうからです。今後はこれまで整えてきた病院機能のうえに、患者様それぞれの環境に配慮したきめの細かい医療を目指してまいります。

先日、長年航空管制官を務め現在は大学病院で医療安全を担当している外部講師を招いて、全職員対象の研修会を開きました。航空機の管制業務と医療業務の安全を対比しながら、さまざまな指摘を受け多くのことを学びました。その中でひとつ大変興味深かったのは、航空管制と医療現場で決定的に違うのは、航空管制ではもともと正常に運行している状態の安全を確保するのに対し、医療現場では病気というきわめて不安定な状況下での安全を確保しなければならないので、より一層の配慮が必要であるという点でした。当院では以前より医療安全を最重要課題として取り組み、きわめて厳しい規則を作り行ってきましたが、そのような中で最近、患者様から「接し方が事務的で、心がかもっていない」というご指摘もいただいています。今後は医療安全のレベルを維持し、かつ迅速な業務をこなしつつも、病苦をかかえた患者様に寄り添うことの出来る心のかもった病院にしていきたいと思えます。

図 1 主な部位別がん死亡率の推移



(注) 肺がんは気管、気管支のがんを、子宮がんは子宮頸がんを含む。大腸がんは結腸と直腸5状結腸移行部及び直腸がんの計。最新年は年計 (概数)  
 (資料) 厚生労働省「人口動態統計」

10年ほど前であれば、多くの場合「胃癌Ⅱ胃の切除(1/2〜2/3胃切除術または全摘術)」と考えられていました。しかし、様々な研究や医療技術の発達に

①手術治療について  
 ～内視鏡手術の位置づけ

手術、抗癌剤治療が一般的です。放射線治療は骨や脳に転移が認められる場合には有効性が認められていますが、初期治療としては一般的ではありません。また、近年様々なメディアによく登場している免疫学的治療も、まだ特殊施設に限られた(研究段階の)治療方法でしかないのが現状です。したがって当院においては、手術治療及び抗癌剤治療に重点をおいております。

【治療】

その進行度(ステージ)を決定する必要があります。

診断には上部消化管内視鏡検査が必須で、組織検査を行い顕微鏡的に癌細胞を検出することが必要です。また、治療を進めるためには他にX線検査、超音波検査、CT検査などで総合的に判断し

【症状と診断】  
 特有な症状はありませんが、多くは胃潰瘍、胃炎などと共通するような心窩部の痛み、食欲低下など

吐血・下血、体重減少として自覚することもあるため何らかの症状がある場合は早めの受診をお勧めいたします。

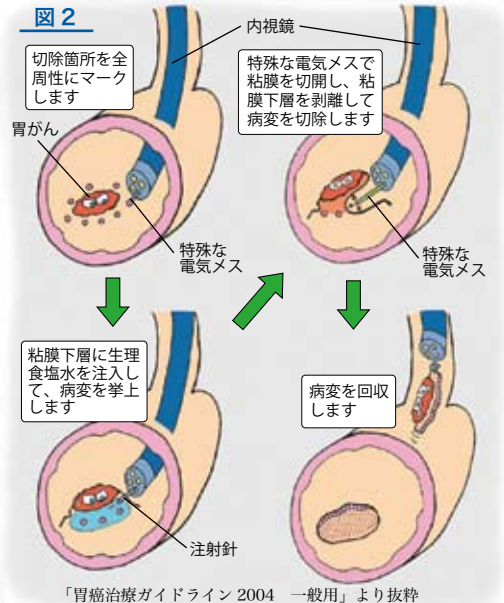
ですが、病状が進行すると腹部膨満感、

診断には上部消化管内視鏡検査が必須で、組織検査を行い顕微鏡的に癌細胞を検出することが必要です。また、治療を進めるためには他にX線検査、超音波検査、CT検査などで総合的に判断し

その進行度(ステージ)を決定する必要があります。

手術、抗癌剤治療が一般的です。放射線治療は骨や脳に転移が認められる場合には有効性が認められていますが、初期治療としては一般的ではありません。また、近年様々なメディアによく登場している免疫学的治療も、まだ特殊施設に限られた(研究段階の)治療方法でしかないのが現状です。したがって当院においては、手術治療及び抗癌剤治療に重点をおいております。

図 2



より早期発見の場合には胃を温存することが可能となりました。この治療法のひとつに内視鏡下胃粘膜下層剥離術(ESD)があります(図2)。病変が粘膜内(及びごくわずかな粘膜下層)に限られている場合、上部消化管内視鏡を用いた癌病変をいわゆる「剥がしとる」方法です。一時的な食事制限が必要になりますが、通常手術と比較して入院期間も短く、痛みを伴うことはありません。また、胃を温存することでその後の食事摂取や体調管理に不自由することがなく、今まで通りの日常生活を送ることが可能です。しかし、この治療法は、大きさや部位、組織型などに制限があるため、正確な治療前診断が必要であり、患者さまには上部消化管内視鏡検査を数回受けていただく必要があります。

②抗癌剤治療について

初回治療として行う場合と手術後転移・再発予防のために行う場合があります。内服薬や点滴薬(またはその組み合わせ)にて行われ、通常外来通院が可能な治療方法です。食欲低下、嘔気・嘔吐、下痢などの患者様ご自身が自覚する副作用もあれば、血液異常など検査によつてのみ確認できる副作用もあります。これらに十分注意しながら、定期的に通院し、体の抵抗力(免疫力)を低下させないようにすることがとても大切です。

③開腹手術について

このように胃癌に対する治療は近年目覚ましい進歩を遂げています。しかし、何よりも重要なことは早期発見・治療であることは言うまでもありません。前述したような症状がある場合または健康診断などで追加検査が必要と判断された場合には、早期の上部消化管内視鏡検査を受けることをお勧めいたします。

するか部分的に摘出するか決定します。初めて施行された胃切除術は1881年ドイツ人外科医のビルロート医師が行ったと言われています。その後、様々な改良がなされ、安定した治療成績が医学的に証明されています。一方、近年一定の治療効果が認められてきた腹腔鏡下手術ですが、開腹手術の歴史的な背景をふまえて、当院では病変や患者様の状態を考慮し限定して施行しております。

【開腹手術について】

内視鏡治療が行えない場合、開腹して病変の部位・大きさなどにより胃を全摘

する

【開腹手術について】

【開腹手術について】

【開腹手術について】

【開腹手術について】

# 毎日に感謝して

日野市  
多摩平在住

遠藤 法子さん



私は、平成21年4月、原田先生の執刀の下、胃癌（印環細胞癌）により胃の亜全摘手術を受けましたが早期であったため、胃の5分の1を残すことができました。

術後は順調で手術の翌日から歩くことができ、リンパ節への転移もなく経過良好で、食事も美味しく毎食完食でダンピング症状も一度もなく、5月2日に無事退院いたしました。お薬も無く、月に一度であった検査も2ヶ月に一度、3ヶ月に一度となり現在は4ヶ月に一度となっております。

この間、仕事は6ヶ月間休職し平成21年10月に復職いたしました。この頃になると食べるものに関する支障はほとんど無くなり、10時と3時のおやつをボリュウムアップすることで量的にも確保できておりました。私は生来、食べ物の好き嫌いが多

く、野菜・果物はほとんど食さなかつたのですが、手術後は何でも美味しく食べられるようになりました。1年も経つと全く元通り（いっぺんに二人前食べる）という訳にはいきませんが、今までの分を取り返すような旺盛な食欲で胃が無い人と誰も気づかないほどになり、周りの人がびつくりするような有様でした。

このような生活を送りながら平成23年3月末には定年前でしたが37年間の公務員生活から自らを解放し、4月からは全く違った時間を過ごしております。

今は、主婦として毎日当たり前に行っている食事の仕度・掃除・洗濯など、「平凡な生活」がどんなに貴重でありがたいものであるかを実感しています。健康で動けることのありがたさ、自然の恵みのすばらしさ。

今、自分がこの世に居るということをしみじみと噛み締めています。

また、仕事を理由に今まで遣らなかつた事、遣りたい事、行きたい所など思いついた事をノートにアトラダムに書き出し、そのリストを基にぎつくりとした予定を立て、それを目安として日々の日課にしています。

何事も毎日一つずつと決めて、欲張らずにすることにしています。実行した事は赤い線で消していくと出来た事、出来ていない事が一目瞭然で俄然やる気が起きてきます。

家中の間取りと家具の寸法を計り、模様替えの絵を描きます。こうしよう、この方が良いか、カーテンの色は：など。また、網戸・窓ガラス・雨戸の掃除だったり：。とつても些細なことなのですが、これが出来る事に心が弾みます。

庭を眺めて植木の枝が伸びていたら脚立に登って枝切りをし、草が伸びてきたら草むしりをし、お花が咲いていることに感激したり：。

お天気のよい日は洗濯し、布団を干して太陽の恵みに感謝するということも毎日を送れることがとつてもありがたく至上の喜びなのです。

また、月に何回か友達とあるいは妹とお出かけをしています。4月にはお天気のよい日の朝、思い立って新宿御苑にお花見に、5月には富士山が見たくなつて河口湖まで出かけたりと、仕事をしていると考えられないようなお出かけをルンルン気分です楽しんでいきます。好きな音楽会や展覧会にもよく行きます。仕事をしている時も音楽会や展覧会には行っていたのですが、今は時間と心にゆとりがあるからでしょうか、見たり聞いたりするものがとつても新鮮で感激がまつたく違えます。勿論、食事をしたりおしゃべりの時間もありません。こういう時間がまた楽しいものです。

退院後は主人とも楽しい思い出作りをと、少なくとも年に3回は小旅行をしています。今までは仕事の都合で土・日曜日に限られていたのですが、この4月からはウイークデイを入れた日程にしてゆつくりと散策や観光を楽しんでいます。

何処に出かける時もカメラを持ち歩き、料理を撮ったりスナップ写真を撮っています。



平成23年8月 等々力溪谷にて

今、私は毎日が楽しくて仕方ありません。お天気のよい日は目が覚めるとスキップをしたいような気分です。その日のスケジュールが頭の中を駆け巡ります。そして、今日も元気に動ける自分を感じ、生きている喜びを噛み締めている毎日です。

このような生活を送れるのも、原田先生をはじめとする八王子消化器病院のスタッフの皆様と適切なご判断とご指導のおかげと心から感謝をいたしております。

これからも生あることに感謝し、一日一日を大切に楽しく充実した日々を送りたいと思っております。

# 平成 22 年度 手術実績

## 年間手術件数

■全身麻酔	609 件
■腰椎・局所麻酔	114 件
<b>合計</b>	<b>723 件</b>

## 手術内容および件数

食道切除再建術	9	虫垂切除術	8
胃全摘術	19	肝切除術	23
胃切除術	52	膵切除術	32
胃その他の手術	10	脾臓摘出術	1
小腸切除術	13	胆石症手術	163
結腸切除術	92	胆管切除術	2
直腸切除術	53	腹壁・鼠径ヘルニア手術	134
直腸切除術 (人工肛門)	18	その他の手術	30

## 学会施設認定等

1. 日本外科学会外科専門医制度関連施設
2. 日本消化器外科学会専門医修練施設
3. 日本消化器内視鏡学会指導施設
4. 日本消化器病学会認定施設
5. 日本胆道学会指導施設
6. 日本食道学会全国登録認定施設
7. 日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設 B 認定
8. 日本がん治療認定医機構認定研修施設

当院では、平成 17 年度以降、年間 700 件以上の手術を行っており、昨年度の年間手術数は 723 件でした。これはひとえに地域住民・医療機関の皆様にご協力いただき、消化器疾患の専門病院としての評価を頂いている結果であると思えます。

手術内容を難易度別 (日本消化器外科学会分類) にみると、高難度手術 127 件、中難度手術 203 件、低難度手術 327 件、その他の手術 66 件となり、高度の技能を要する食道癌、膵臓癌、胆道癌、肝臓癌に対しても積極的に外科的治療を行っていることが当院の特徴です。

手術は、全症例を医師全員 (消化器外科・消化器内科) のみならず、看護師、診療放射線技師等のコ・メディカルが参加する合同カンファレンスにおいて治療方針を決定し、根拠に基づいた安全かつ質の高い医療の確保を図っております。

また、患者様・ご家族の方には、主治医より病状や手術内容についてご説明をし、インフォームド・コンセントに努めることはもとより、病棟看護師による手術オリエンテーション、手術室看護師による術前面談など顔のみえる関係作りにも積極的に努めております。

これまでの豊富な治療経験と最新の技術を駆使し、患者様一人ひとりにとって最善の医療を提供すべく日々臨床の場に臨んでおります。

病診連携室 室長 大津 行博

### 想うこと



10 月に入りましたが、この月は陰暦では「神無月 (かんなづき)」と呼ばれます。

語源については、全国から神々が出雲大社に集まるため、諸国に神がいなくなる月と古くから言われています。因みに出雲国 (現在の島根県) では、神々が集まることから「神在月 (かみありづき)」と言うようです。この他にも、新米で酒をかます「醸成

月 (かみなしづき)」とも言われますが、「無 (な)」は「の」の意で、神を祭る月「神の月」とする説が有力です。秋の深まりとともに、今回の東日本大震災で多大な被害を被った東北の酒蔵から新酒の便りが次々と届いていますが、私はこの「醸成月」説を支持したいのですが、皆様は如何でしょうか。

事務長 久野久夫